

# 競 技 注 意 事 項

1. 本大会は2020年度（公益財団法人）日本陸上競技連盟競技規則及び本大会申し合わせ事項により行う。
2. 練習は競技役員の指示に従い、危険防止に努めること。
3. 競技者の招集について
  - (1) 招集方法
    - (ア) 競技者は指定された時間までに1次点呼（○付け）を行い、その後、各競技開始場所に直接集合する。
    - (イ) 1次点呼（○付け）を行わない、または、指定された時間に競技開始場所にいなかった競技者は、当該競技種目を棄権したものとみなし処理する。
    - (ウ) 代理人による招集最終確認は原則として認めない。他の種目と兼ねて出場する競技者は、その旨を競技者係に申し出て出場を確認する。
  - (2) 1次点呼（○付け）場所は、競技場第1ゲート付近（100mスタート付近）に設ける。
  - (3) 1次点呼（○付け）終了時刻、及び現地集合時刻はプログラム記載の競技日程の通りとする。
4. 競技場への入退場について
  - (1) 競技場への入場は競技役員の指示に従うこと。競技者以外はトラック、フィールド内に立ち入ることはできない。また、本部前（メインスタンド下の通路）の通行は禁止とする。
  - (2) トラック競技出場者は、フィニッシュ後、各スタート地点に戻り退場する。
    - ・100mに出場した選手→第2ゲートから出て黒マットを通りスタート地点に戻り退場する。
    - ・400m、800m→そのまま第2ゲートから退場する。
    - ・上記以外のトラック種目→第1曲走路バックストレートを通りスタート地点に戻り退場する。
  - (3) フィールド内の入退場については、やり投助走路の延長線上から行き、当該競技役員・マーシャルの指示に従う。
5. ナンバーカードについて
  - (1) ナンバーカードは、必ずユニホームの胸背に確実に付けること。ただし、跳躍競技の競技者は胸・背のいずれかでよい。
  - (2) 800m以下のトラック競技出場者は、各スタート地点において腰ナンバーカードを受け取り、パンツ右側後方につけること。ただし、リレー競技については、4×100m Rは第4走者のみ、4×400m Rは第2，3，4走者のみ付けること。
  - (3) 1500m以上の競技（競歩も含む）は、レーンナンバーカードを招集所で受け取り使用する。
6. 走路順・試技順について
  - (1) 予選における走路順・試技順は、プログラム記載通りとする。
  - (2) 決勝進出者を決める場合、同タイム者については判定写真を拡大し、細部（電気計時1/1000秒）まで読みとり判定する。判定が不可能な場合は救済レーン（第9レーン）を使用するが、対象選手が救済レーン数を上回る場合は、本人か代理人によって抽選する。ただし、800mでは安全上問題のない範囲でスタートからブレイクラインまでのセパレートコースについては、一つのレーンに複数の選手を入れて競技を行う。
7. 競技について
  - (1) 不正スタートをした競技者は1回で失格とする。
  - (2) 「On your marks」あるいは「Set」の合図の後、音声や動作、その他の方法で他の競技者を妨害したとき、1回目はグリーンカードで対応し、スターターより当該選手に注意内容を告知する。同一ラウンドにおいて同様の行為を2回行った場合は遅延行為とみなし、審判長よりイエローカードを示し警告を与える。同一種目において2枚のイエローカードを受けた競技者は当該競技を失格とするが、それ以後の種目の出場を妨げない。
  - (3) 事故防止のため、短距離走ではフィニッシュライン通過後も自分のレーン（曲走路）を走ること。
  - (4) リレー競走に出場するチームは、その種目の第1組目の現地集合時刻1時間前までにオーダー用紙を競技者係に提出すること。提出時間に遅れたチームは当該種目を棄権したものとみなし処理する。
    - \* 申告したオーダー用紙の変更は、1組目の現地集合時刻までに主催者が任命した医務員の判断がない限り認められない。
    - \* 現地集合時刻1時間前であっても、一度申告した編成の変更（オーダー用紙の差し替え）は認められない。
    - \* 医務員の判断による変更は出場者のみ認められ、編成（走る順番）の変更は認められない。
  - (5) 男子5000m・男子3000m S C・女子400m H・男女4×400m Rは決勝タイムレースとする。
  - (6) 5000m Wは、男女同時スタートとする。
  - (7) 競技場内での助力は一切禁止する。コーチングエリアから助言を与える場合はマーシャルか該当種目の競技役員の指示に従い、競技運営や他の競技者の妨げにならないように注意すること。また、コーチングエリアでは、映像機器の画像を競技者に見せることはできるが、手渡すことはできない。

8. 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は下記の通りである。

種目	練習	1	2	3	4	5	備考
男子走高跳	決勝 1 m60	1 m65	1 m70	1 m75	1 m80	1 m85	以降3cm刻みとする。
女子走高跳	決勝 1 m20	1 m25	1 m30	1 m35	1 m40	1 m45	以降3cm刻みとする。
男子棒高跳	決勝 2 m90	3 m00	3 m10	3 m20	3 m30	3 m40	以降10cm刻みとする。
女子棒高跳	決勝 2 m00	2 m10	2 m20	2 m30	2 m40	2 m50	以降10cm刻みとする。

9. 予選通過記録

種目	予選通過記録	備考
男子やり投	38m00	天候その他の条件で変更することもある。

10. 競技に使用する用器具は、全て主催者が用意したものを使わなければならない。やりは検定を受けて通ったものを使用することができる。検定時間は以下の通りとする。ただし、棒高跳用ポールに限り個人所有のものを使用できる。

検定時間：（1日目）8：30～9：00 （2日目）7：45～8：15 検定場所：第2ゲート用器具庫前

11. スパイクの長さは、9mmをこえてはならない。走高跳、やり投は12mmをこえてはならない。  
 12. A・B決勝のある種目については、A決勝進出者の中から1位～8位までの入賞者を決定する。  
 13. 各種目3位までの入賞者は、競技終了後ただちに表彰する（代理でも良い）。4～8位の入賞者は、競技場エントランスホールで賞状を受け取る。  
 14. 各学校のテント設営は、テント付属の取扱説明書（マニュアル等）に従って、しっかり固定すること。  
 15. テント設置場所は、事前に決定しているスタンド割り振りの場所に設置すること。  
 16. 今大会は、結果の掲示はいたしません。Athlete Rankingで確認してください。  
 17. その他  
 (1) 全道大会出場権を得た競技者の監督は、この大会の最終日までに全道大会申込みを完了すること。  
 (2) 各種目の全道大会出場権は、下記の順位までである。A・B決勝のあるトラック種目の9位以降の順位については、B決勝の中から決定する。また、8位入賞者で参加資格を得ていない者の中から、決勝において、別に掲げる標準記録を突破した者には、参加資格を与える。

種目	100m	200m	400m	800m	1500m	3000m	5000m	100H/110H	400H	3000mSC	競歩
男	12	13	14	13	13	—	14	13	14	11	4
女	13	14	14	13	11	10	—	14	12	—	7
種目	400R	走高跳	棒高跳	走幅跳	三段跳	砲丸投	円盤投	ハンマー投	やり投		
男	11	10	8	11	11	11	10	8	11		
女	12	11	8	12	8	9	10	6	10		